

広報

えりも

2012

1月号

№.878



父母の会会員も参加して、あんころもちなどを作りました。

「ヨイショー」と、元気に掛け声

庶野保育所でもちつき大会

12月8日、庶野保育所でもちつき大会が催され、児童34人が杵と臼きね うすを使った昔ながらのもちつきに挑戦しました。

子どもたちは、「ヨイショー」と掛け声をかけて、友だちのもちつきをサポート。父母の会会員約30人も参加して、あんころもちやきなこもち、雑煮などを子どもたちと一緒に作りました。

新年を迎えて



えりも町長 岩本 溥叙

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、世界各地で地震、洪水等による被害が発生した「自然災害」の一年でありました。中でも、三月十一日の東北地方太平洋沖地震による巨大津波により、東北三県の海岸に面した街は甚大な被害を受け、さらに、福島第一原発事故と、我が国が未だかつて経験のない未曾有の大惨事となりました。当町においても、その津波により家屋や道路、さらには海岸線の護岸が倒壊する被害を受けました。この東日本大

震災により被災され、今なお厳しい生活を余儀なくされている方々に対し、心からお見舞い申し上げます。

このような天災はいつ起こるか分かりません。そのため、当町は災害に強いまちづくりを目指し、昨年三月一日に町と北海道大学は地震と津波に備えた「相互協力協定」を締結し、様々な取り組みを行ってきました。その一つとして六月に開催した防災フォーラムには、町民はじめ自衛隊員、管内各町の防災担当者など約四百人の参加があり、あらためて防災への関心の高さを実感できましたが、政府は、三陸沖を中心として今後三十年以内にマグニチュード八・〇以上の地震が三〇割の確率で起きると予想していることから、さらなる防災対策強化を図ってまいります。

町の基幹産業であるコンブ漁は、価格が比較的高値で安定していたため昨年並みの生産高となりましたが、秋サケ漁においては漁獲量・金額ともに前年を大きく下回る結果となり、さらに、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉参加を表明したこと

で、今後におけるコンブ・サケへの影響が懸念されます。

町の事業は、本年度で計画されたエゾシカ被害対策として、近浦から目黒地区までの総延長約四十二キロメートルに及ぶシカ侵入防止柵の設置工事を着工したことにより、山から下りるシカの数を抑えることができ、農業や海産干場への被害防止に期待できます。また、津波や高潮対策の一環として、えりも港・港湾区域（新浜地区：延長五・一五）の護岸を一・二層高（かさあ）げする工事も予定どおり実施します。

新年度においては、住宅環境整備で公営住宅建替工事（大和

前回の辰年はこんな年



前回の辰年は、西暦2000年という区切りの年でもありました。

えりも町ではこの年、120年目を迎え、式典や植樹などさまざまな記念行事が行われました。えりも小学校でも開校120年を記念して12月に式典を開いています。一方、3月には、歌別小学校が閉校し、97年の歴史に幕を下ろしました。

このほか、えりも消防団が消防団最高の栄誉とされる特別表彰「まとい」を受賞し、11月に記念祝賀会が開かれています。

（団地・一棟八戸）を実施するほか、仕事などにより昼間保護者が家庭にいない小学一〜三年生の児童に対し、放課後や夏・冬休み期間中など、保護者に代わって保育を行う「放課後児童クラブ」を開設します。

本年は、国においても厳しい財政状況が予想されることから、引き続き行政改革を推進し、町民が「安心・安全」で快適に暮らせるまちづくりの実現を目指してまいります。

年頭にあたり、本年が、町民皆様にとりまして良い年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

十二月定例

町議会

十二月定例町議会が十二月二十一日に開催されました。今月号では、一般行政報告と教育行政報告を要約して掲載します。

一般行政報告

▼えりも町交流館の設置

町民の生活文化の向上と地域活性化を図ることを目的に、えりも町交流館を設置します。

官民が一体となって取り組む「まちづくり推進協議会」が主体となって事業を行い、一階をえりも町の総合案内所的な機能として、異世代交流、休憩、情報発信・収集、多目的利用の場とし、二階部分は展示、高齢者や児童の遊び場を配置します。

本物件の利活用には、い

ろいろと検討・協議を重ねた結果、一定の期間を要したことにご理解をいただきたいと思います。

▼モデル事業

北海道事業のモデル市町村に当町が選ばれ、津波避難計画の策定を進めているところです。

モデルとなる自治体は、津波予報区ごとに一市町村を選定したもので、日高・十勝地方の太平洋沿岸中部予報区では当町が選ばれました。策定に当たっては、日高・十勝の両管内の町職員などが参加して行う「全

体計画」と、地域住民を含めた「地域計画」の二部構成で開催しています。

津波避難計画の研修会は来年二月まで五回行われ、その後に計画を作成します。

▼防災訓練の実施

十一月八日、大津波の災害を想定した防災訓練（避難訓練及び通信訓練）を、近浦自治会の住民を対象に行い、防災倉庫とトイレが設置された指定避難場所まで、住民五十二名が迅速に避難していました。

今回の防災訓練は、大津波災害では国道が遮断され、町職員や消防署員などが現地へ向かうことが困難



近浦で行われた防災訓練

になることが予想されることから、住民が自主的に避難する防災意識の向上と自治会が中心となつての訓練を目的に行いました。

▼サイエンスカフェえりも

東日本大震災をもたらし、地震災・津波について振り返りながら、将来の災害にどのように対応するかなどを考える、町と北海道大学主催による「サイエンスカフェえりも」を十一月

十二日にえりも岬林業総合センターで開催しました。

北海道大学の地震火山研究観測センターの専門家が、東日本大震災の被災地の惨状を映像で紹介したり、地震発生メカニズムなどを解説したりするとともに、参加者が日頃から疑問に感じていることに答えるという内容で、多くの質問が出されていました。

▼地域貢献

防災・減災への諸施策は、町独自の対応となると、限

られた予算の中では一定程度の方向性しか示していけないのが現状です。その意をお含みいただき、ひだか南森林組合が中央保育所の避難路の一部整備を、えりも建設協会が近浦地区の防災倉庫とトイレの整備費の一部負担と付近の整地をしていただきました。

このたびの地域貢献はたいへんありがたく、感謝申し上げます。

▼マツカワ稚魚の放流

道栽培漁業えりもセンターが東北地方太平洋沖地震による津波で被災し、例年六月下旬の稚魚の搬入ができなかったことから、ひだか漁業協同組合管内と日高中央漁業協同組合管内への放流は、伊達センターから輸送した稚魚を直接放流することになりました。

えりもセンターは、電気・設備関係の一部が復旧後に、伊達センターからえりも漁業協同組合管内分の放流種苗を十月月上旬に搬入し、十月二十四日から四日

間をかけて十五万七千尾を放流しました。

このほか、マツカワ栽培漁業の一環として、えりも岬漁港での放流式や襟裳岬以東地域マリネビジョン協議会などが住民や園児、児童との協働で放流を行いました。町内では、えりも地区で八万尾、庶野地区四万四千尾、さらにイベントでの放流数を合わせ、十三万二千尾を放流しています。

本年度のえりもセンターでの飼育結果は、搬入十六万八千六百六十二尾に対し、放流が十六万八千五百尾で、取り上げ生残率は九十九・九%になりました。

▼えりも海と山の幸

フェスティバル

第三十回えりも海と山の幸フェスティバルを十月二日、スポーツ公園で開催しました。

時折、強い雨や風に見舞われ、しばし行事の一部を中止することなどがありました。恒例の「サケのつかみ捕り」、「お楽しみ抽選



毎年盛況の「サケのつかみ捕り」

会」、「フェスティバル第三十回記念もちまき大会」を予定どおり行うことができました。

会場内では、えりも漁協女性部のサケ鍋や猟友会えりも分区のシカ鍋、ひだか南森林組合のキノコ汁など、悪天候でありましたが、町内外から訪れた約五千人的方々に楽しんでいただきました。

▼緑化事業

えりも岬の緑を守る会主催のイキイキ森林づくり事業が、十一月四日にえりも岬国有林で行われました。

当日は、漁業者など地元関係者をはじめ、道森林管理局や日高南部森林管理署など約百名の協力で枝落とし作業が行われ、育樹事業を無事終えることができました。

作業終了後には、ひだか南森林組合の協力によりキノコ汁が振る舞われ、参加者から喜ばれました。

▼サケの飯寿司づくり

体験事業

えりも地域力発掘協議会主催のサケの飯寿司づくり体験会を、十一月十一日からの二日間実施しました。

札幌市や旭川市など道内各地から五十七組七十七名の参加があり、初日は、栽培漁業えりもセンターで佐藤勝えりも地区定置網部会長が、飯寿司づくりのためのサケのおろし方を指導しました。二日目は、福祉センターで今年一月のつけものコンクール「サケ飯寿司の部」一位の渡部智佳子さんを講師に、えりも漁協女性部十名も前日に引き続き

サポートしながら、「飯寿司づくり」を体験していただきました。

この体験事業は、予想以上に人気があることから、次年度以降の継続に向けてさらなる工夫をしていきたいと考えています。



大勢が参加した飯寿司づくり体験

▼季節性インフルエンザ

予防接種

国のインフルエンザ総合対策は、平成二十一年に流行了した新型インフルエンザを、今シーズンから季節性インフルエンザとして対策することになりました。

十月からは町内外の七か所の医療機関に委託し、予

防接種法に定められた高齢者のインフルエンザワクチンの接種を実施しています。

また、高齢者以外の方々のインフルエンザの予防接種は任意接種ですが、再流行の可能性などを考慮し、小学生までを対象とした接種費用の助成事業を行つていきます。

▼交通安全運動

道内の交通事故による死者数は、前年同期と比べて十九名減と減少傾向にあります。

町内の物損事故を除く事故発生件数は、前年同数の六件、負傷者数は前年より一名減の六名となっています。「交通事故死ゼロの日」は、十一月末現在で千八百七十八日となり、来年三月三十一日の二千日を目標に現在継続中です。これから厳冬期を迎えますが、凍結路面や夕暮れ時の事故防止など、あらゆる交通事故の根絶のため、町民みなさんのご協力をお願いします。

教育行政報告

▼学校指導訪問

学校経営の一層の充実と教職員の資質向上を目的として、日高教育局義務教育指導監と指導主事の学校訪問は、十二月二日に全校終了しました。

教育委員による学校訪問についても、すべて終わっています。

▼教職員の研修

教職員の研修については、町生徒指導連絡協議会や町教育向上対策委員会の研修事業に積極的に取り組んでいるところです。

また、道立教育研究所や町学校教育研究会による研修講座・活動に参加し、各学校間の情報交換や児童生徒の学力向上と教職員の資質向上に努めています。

▼日高へき地複式教育研究大会笛舞大会の開催

十一月二日に笛舞小学校で研究大会が開催され、複

式学級の授業参観や研究協議が取り组まれました。研究実践に積極的に取り組まれた先生方に対し、心から敬意を表しますとともに、成果の定着と発展を望むものであります。

▼中高一貫教育の推進

中高一貫教育は、緑化事業を体験するフィールド学習、進路ガイダンス、中学二年生が参加した高校一体験入学や授業公開など多くの事業が行われました。

また、十一月には、新潟県村上市で行われた全国中高一貫教育研究大会に教職

員三名が参加してきました。これからの中高一貫教育の一層の充実と活性化に寄与できるものと考えています。

▼えりも高校について

《進路指導》

十一月二十二日現在のえりも高校の進路状況は、生徒四十六名中、就職内定が十四名、進学が十五名合格となっており、順調に推移しているものと考えています。

今後も、全員の進路が決まることを目標に、進路指導を行っていきます。

《海外研修》

十月十八日から五日間にかけて行われた大韓民国への海外研修旅行には、三年の生徒四十一名、引率教員五名が参加しました。

在韓日本人女性が暮らす福祉施設「慶州ナザレ園」を訪ね、童謡と一緒に合唱するなど親交を図り、また、姉妹校の茂山中・高等学校では、懇談や合唱交歓、サッカーでのスポーツ

交流を通して、相互理解を図ってきました。

生徒にとつて、歴史や風土、文化に触れ、国際的な視野を持つことができたことは、大きな財産になったと思つていきます。

《高文連美術展》

高文連苫小牧支部美術展において、美術部の作品が最優秀賞と優秀賞を獲得し、函館市で開催された北海道高等学校文化連盟美術展に参加しました。

入賞は逃しましたが、今美術部のさらなる活躍を期待するものであります。

《バレーボール部の全道大会出場》

十月に開催された「全日本バレーボール高等学校選手権大会北海道予選会日高地区予選」で、女子バレーボール部が優勝し、全道大会への出場権を獲得しました。

翌月、札幌市で開催された「北海道代表決定戦」に出場し、健闘しましたが、セットカウント〇―二で惜敗しています。

▼研修会などの開催

《日高地区PTA母親研修会えりも大会》

十一月五日、日高地区PTA母親研修会えりも大会が開催され、管内各町から約百八十名が参加しました。

北海道教育大学釧路校の二宮信一准教授が講演し、その後、分科会で子育てに對しての意見交換がなされました。

《高齢者教室生大会》

高齢者教室生大会が十一月十二日に開かれ、町内十教室の教室生二百一名が参加しました。

講演会では、北海道大学大学院附属地震火山研究観測センター長の谷岡勇市郎氏を招き、北海道の地震と津波について、学習しました。

《幼児教育振興会事業》

幼児の情操を養い、健全な成長を促すため、十月十四日に人形劇団えりつこを招き、人形劇を上演しました。会場には、幼児や保護者合わせて二百三名が来



高校生のフィールド学習

場しました。

また、十一月二十四日には、北海道大学病院腫瘍センターでチャイルド・ライフ・スペシャリストとして勤務し、日本チャイルド・ライフ学会会長でもある藤井あけみ氏を招き、幼児教育講演会を開催しました。

国立がんセンターなどの病院で子どもたちや家族との関わりを通して学んだことをお話しいただく予定でしたが、浦河沖地震の発生で、残念ながら途中で中止となりました。

《町民生涯学習講座「まなびの広場」》

町民の学習機会の拡充を図るため、町民生涯学習講座「まなびの広場(秋講座)」を開催しました。

十一月二十二日からの健康講座を皮切りに、絵ハガキ・パソコン・ステンドグラスの四講座を開講し、約八十名の方々が受講しました。

▼芸術文化事業について

《えりも町文化祭の開催》

文化祭は、十月二十日か

ら二十五日までの作品展、十月三十日の芸能発表会を、福祉センターで開催しました。

作品展では、約七百四十点の出品に加え、生け花体験教室も実施されました。

また、芸能発表会では、文化協会加盟団体などの十団体が発表し、多くの観客が楽しみながら鑑賞していました。



700点以上の出品があった作品展

《芸術文化鑑賞事業》

十一月十三日に、町生涯学習推進協議会主催による

「ライオンキング鑑賞ツアー」が開催されました。

協議会でも初の試みとなる事業でしたが、二十三名が参加し、札幌市の北海道四季劇場にて「ライオンキング」を鑑賞しました。「ライオンキング」は高い芸術性が評価されており、参加者は大変満足していました。

▼郷土資料館事業について

《おびひろ動物園飼育体験学習》

八月に行われたおびひろ動物園飼育体験には、小学四年生く六年生の十四名が参加し、動物舎の清掃、えさ作り、えさやりなどの飼育作業を体験しました。受け入れ側の動物園からも評価をいただいております。今後も継続して実施したいと考えています。

《各種体験学習》

自然体験事業である、わらしやんど・えりもまるごと自然体験では、「米づくり体験」支援や、猿留山道のボランティア事業、ルチン岳登山、カヤック体験など、地域の豊かな自然環境や文化資源など活用し、子ど



子どもたちに好評のカヤック体験

もたちの心に原風景を形成することができたと考えています。

体験陶芸教室には、午前の部、夜の部の二回開催し、町内外からも参加者があり、リピーターも多く好評を得ています。

《猿留山道復元ボランティア事業》

重要な文化財である猿留山道の復元ボランティア事業を九月二十三日から二十四日に行い、初日はえりも岬地区の襟裳神社祭典での神輿御渡、町指定無形文化財襟裳神楽を鑑賞し、庶野地区の桜岡から百人浜駐車

場までのフットパスコースを楽しんでいただきました。翌日には三十四名が参加し、笹刈りなどのボランティア作業をしながら猿留山道を歩いて豊似湖へ下り、歴史と自然を楽しんでいただきました。

《郷土資料の寄贈》

今年四月から十一月二十日までに、町民有志の方々から小学校の文集など百二点の郷土資料を寄贈していただきました。

えりもの歴史と文化を伝える資料であることから、今後も収集と保存、活用について推し進めたいと考えています。

《国指定文化財・名勝ピリカノカ》

昨年八月に国指定文化財として、襟裳岬が名勝ピリカノカ襟裳岬(オンネエングルム)に指定されました。今年度は、町民をはじめ襟裳岬を訪れる観光客に広く周知し、観光資源としての価値を高めようと国庫補助を受け、岬先端部に石碑の設置、解説パネルの製作

などに取り組んでいます。

▼体育の振興について

《スポーツ事業》

町民の健康・体力づくりの維持、増進を図ることを目的として、十月十日に陸上競技場で町民マラソン大会を開催し、幼児から成人までの七十八名が参加しました。

また、十一月十四日の町民ミニバレーボール大会では、十八チーム九十名が参加し、大会を通して交流を深められました。

《小学生バレーボール大会の開催》

北海道小学生バレーボール連盟主催の小学生バレーボール大会が、十一月五日からの二日間、町民体育館とえりも中学校体育館を会場に開かれました。

二十八チーム約三百名が参加し、日頃の練習の成果を発揮するとともに交流を深めました。

《体育協会四十周年記念事業》

町体育協会四十周年記念

事業として、小学生五チーム、一般六チームによる駅伝大会を十月八日、陸上競技場で開催しました。

また、十二月十日からは、町民体育館を主会場に全道選抜バレーボール大会を開催し、中学校女子八チーム、高校男女それぞれ八チームの計二十四チーム約三百名が参加し、熱戦が繰り広げられるとともに交流が図られました。

《スポーツ公園施設の利用状況》

スポーツ公園の各施設は、四月にオープンし、十月末日までの閉鎖日までに一万三千人を超える利用がありました。また、同じく四月に開館した温水プールには、八千六百人を超える利用があり、九月末日に閉館しています。



来庁者にえりもをPR

役場庁舎口
ビーに、えりも町の観光案内と特産品のピーアールを兼ねた展示スペースができました。

「白い恋人」ポスター、えりも町ならではの生産加工品などが並び、町外の来庁者へ「えりも」をアピールする効果が期待されます。



地区別町政懇談会を開催します

町では、住みよい町づくりを進めるため、「地区別町政懇談会」を毎年開催しています。

これは、町が行っているさまざまな事業の説明や、町民みなさんからのご意見、要望などを話し合う場として、開催しているものです。

今年度は、左表の日程で開催します。町民みなさんのご参加をお待ちしています。

● 問い合わせ先
企画課広報係 ☎ 二一四六一二

月日	地区・自治会	会場	開始時間
1/25 (水)	歌別・上歌別	歌別生活館	10:00～
	東洋	東洋生活館	13:30～
	えりも岬・苫別	林業総合センター	15:15～
1/26 (木)	近浦・笛舞	笛舞ふれあい館	10:00～
	西えりも	西えりも生活館	13:30～
	本町・新浜	福祉センター	15:30～
1/27 (金)	大和第1第2・和里	大和共同作業所	10:00～
	庶野	庶野生活館	13:30～
	目黒	目黒生活館	15:00～

ライターによる 火災事故を防ぎましょう！

使い捨てライターを使った子どもの火遊びが原因とみられる火災が、これまで相次いで発生しています。

このため、従来型の使い捨てライターの販売は禁止され、安全対策を施した新しい使い捨てライターが販売されています。

新しく販売されているライターは、簡単に着火できないようになっていきます。しかし、子どもがライターを使用しないよう周囲の大

人が管理し、注意喚起を行うことが大切です。家庭でのライターの取り扱いにご注意ください。

◎子どもの手の届かないところにおきましょう。
・家の中、車の中にライターを放置するのは、やめましょう。

◎子どもに火遊びの危険性を教えましょう。
・子どもがライターで火遊びをしているのを見かけ

たら、すぐに注意しましょう。

・理解できる年齢になったら、家庭や学校で子どもに火の怖さを教えることも大切です。

◎不要なライターはきちんと捨てましょう。

・利用しなくなったライターが、家の中にありませんか？

・ライターはガス抜きして、正しく廃棄しましょう。

※ガスが残存するライターの廃棄を原因とするごみ収集車の火災事故等も発生しています。

■消防えりも支署

☎ 二一〇三八

ライターのガス抜き方法

- ①周囲に火の気の無いことを確認する。
- ②操作レバーを押し下げる。着火した場合はすぐに吹き消す。
- ③輪ゴムや粘着力の強いテープで、押し下げたままのレバーを固定する。
- ④シューという音が聞こえれば、ガスが噴出している。
(聞こえない場合は炎調整レ



バーをプラス方向にいっぱい動かす。)

- ⑤この状態のまま付近に火の気が無い、風通しのよい屋外に半日から一日置く。
- ⑥念のために着火操作をして、火が着かなければ、ガス抜き完了です。

子ども手当

申請お忘れなく

これまで子ども手当を受けとっていた方を含め、すべての方が申請が必要です。

【支給月額】

0～3歳未満	15,000円（一律）
3歳～小学校修了前	10,000円 (第3子以降は15,000円)

中学生 10,000円（一律）

【支払時期】

10月分～1月分の手当は平成24年2月に、2月～3月分は平成24年6月に支給されます。

次の方は、速やかに申請してください。3月までに申請してもさかのぼって支給されません。

- 10月以降に他の市町村へ転出する方
- 10月以降にお子さんが生まれた方

10月以降に他の市町村へ転出した方は、転出した日（転出予定日）の次の日から、10月以降にお子さんが生まれた方は、お子さんが生まれた日の次の日から数えて15日を経過するまでに必ず申請してください。

町民生活課社会係 ☎ 2—4621

あなたを守る住宅用火災警報器！

～調査結果のお知らせ～

10月から12月にかけて、消防えりも支署が実施した住宅用火災警報器の設置状況調査の結果がまとまりましたので、お知らせします。

えりも町では、平成23年6月1日より住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

各地区の設置率は下表のとおりです。自分の命を守る大切な機器ですので、未設置の方はお早めに設置の方よろしくをお願いします。

本調査につきましては、お忙しい中ご回答いただき誠にありがとうございました。

●今回調査できた世帯数 **1,746世帯**（不在世帯249世帯は除く）

●設置率 **77%**

●調査方法 消防職員が各世帯を訪問し、設置状況の確認を実施

○寝室への設置がなく、台所や居間に設置されている住宅が多く見られました。

※日高東部消防組合火災予防条例上、義務設置場所は下記のとおりとなっています。

(1) 寝室として使用されている部屋

(2) 階段踊り場天井（2階に寝室として使用されている部屋がある場合）

○電池切れによる継続警報音発報のため、取り外している住宅が見られました。

※本体が取り外されていれば意味がありませんので、電池の取り替えを行い、お早めに設置をお願いします。

地区名	世帯数	住宅用火災警報機設置の有無				不在世帯	設置率
		有	39世帯	無	10世帯		
近 浦	62世帯	有	39世帯	無	10世帯	13世帯	80%
笛 舞	119世帯	有	71世帯	無	34世帯	14世帯	68%
大 和	419世帯	有	285世帯	無	87世帯	47世帯	77%
本 町	382世帯	有	270世帯	無	72世帯	40世帯	79%
新 浜	288世帯	有	213世帯	無	41世帯	34世帯	84%
歌 別	127世帯	有	63世帯	無	44世帯	20世帯	59%
東 洋	124世帯	有	98世帯	無	13世帯	13世帯	88%
えりも岬	140世帯	有	97世帯	無	26世帯	17世帯	79%
庶 野	262世帯	有	163世帯	無	56世帯	43世帯	74%
目 黒	72世帯	有	51世帯	無	13世帯	8世帯	80%
合 計	1,995世帯	有	1,350世帯	無	396世帯	249世帯	77%

経済センサス-活動調査

- 平成24年2月1日現在で、全国すべての事業所・企業を対象に、経済の国勢調査を実施します。

問い合わせ先 役場企画課振興係（☎2-4612）



学びに意欲

生涯学習講座



スタンドグラス教室



絵はがき教室



パソコン教室

町生涯学習推進協議会主催の生涯学習講座が、十一月二十二日のエアロビクス体操を皮切りにスタートしました。福祉センターを会場に今年から始まった「絵はがき教室」には、高校の美術授業の指導経験がある神子島清八さん（新浜）が講師を務め、参加者に丁寧な指導していました。参加した小学生は「年賀状は花の絵ハガキにして友だちに送りたい」と話していました。

一方、四年ぶりの開催となったえりも高校のパソコン教室



音楽を使った運動に挑戦する参加者

気持ちもスッキリ

リフレッシュ運動教室

には、二人のえりも高校教員がこの日の参加者七人に教えていました。「経験のない方も安心して参加できるように心がけています」と講師の米沢先生は話していました。

ました。毎年人気のスタンドグラス教室には、田中清恵さん（新浜）が講師を務め、サンタクロースのスタンドグラス作りを教えてくださいました。

元気と笑顔を届けたい

笛舞小が交流学習

十二月十三日、思いやりの心や様々な人々と積極的に関わり合う力を身

12月7日、生活習慣病の予防と健康の増進を目的としたリフレッシュ運動教室が庶野生活館で行われ、15名が参加しました。

講師は、NPO法人健康保養ネットワークのインストラクターが務め、冬に太らない体の作り方方を説明した後に、ストレッチ、筋肉トレーニング、有酸素運動などを教えました。参加者は「音楽を聴きながら体を動かすと、気持ちもスッキリしました」と話していました。

翌日には、保健センターで親子を対象とした運動教室が行われ、子ども連れなどの参加者10名が、子どもと遊びながらできるストレッチ運動を習いました。



合唱を披露する笛舞小の児童たち

に着けることを目的に、笛舞小児童二十一名が、特別養護老人ホームやまと苑を訪れ、交流学習を行いました。

児童会長の笠嶋未夢さんが「おじいちゃん、おばあちゃんに元気と笑顔を届けたいです」と挨拶し、児童たちはリコーダーなど使った演奏や合唱を披露し、お年寄りを楽しませました。

交流学習の最後には、児童一人一人が入所者と「元気でいてくださいね」と握手を交わし、お年寄りから「ありがとう」と感謝されていました。

十一月十八日の「土木の日」にちなみ、庶野小学校の全校児童四十三人が、舗装工事が完了した目黒トンネルを見学しました。

見学会は大同舗道・地崎道路J.Vが主催したもので、児童たちはトンネル内で「土木の日」の説明を受けた後、広尾側坑口までの約六百メートルをウォーキングするなど貴重な体験をしました。

目黒トンネル見たよ

庶野小児童が見学



編み方を教わる参加者

伝統の技を習う

郷土資料館で年縄づくり

十二月二日、今年で三回目となる年縄づくりが、郷土資料館で行われました。

年縄に使われる「スゲクサ」は七月に採取したもので、乾燥していることから、編む時には折れないように霧吹きで少し湿らせながら編んでいきます。参加した子どもたちは、小さな手で苦勞しながらも、一生懸命編んでいました。



目黒トンネル前に集まる児童たち

えりも中学校女子が優勝

全道選抜バレーボール大会

体育協会四十周年記念事業として、全道選抜バレーボール大会が十二月十日からの二日間、町民体育館とえりも中学校、えりも高校の各体育館で開催されました。

中学の部が女子八チーム、高校の部が男女各八チーム参加し、高校女子の部でえりも高校が決勝まで進み、中学女子の部ではえりも中学校が優勝しました。



目録を受け取る岩本町長

幼稚園などに飲料水

コカ・コーラボトリングが寄贈

北海道コカ・コーラボトリング株式会社の飲料水の贈呈式が十二月十二日、役場庁舎で行われました。

飲料水の寄贈は、同社の社会貢献活動の一環で、この日は二十ヶ所、四百八十六本分の飲料水の目録が岩本町長に手渡されました。

年内には、町を通じて光の園幼稚園や町内各保育所、やまと苑へ寄贈されます。



24チームが参加したバレーボール大会



がん検診推進事業 平成23年度無料がん検診対象者のみなさまへ

日本のがん検診受診率を50%に上げることを目標とした国の政策の一環として、平成21年度より一定の年齢の方々に対する子宮頸がんや乳がんなどの「がん検診無料クーポン券配布」を開始しています。

クーポン券には有効期限がありますので、この機会にぜひご活用ください。

こんにちは
保健師です

平成23年度無料クーポン券対象者

●子宮頸がん検診

年齢	子宮頸がん検診対象生年月日
20歳	平成2年4月2日～平成3年4月1日
25歳	昭和60年4月2日～昭和61年4月1日
30歳	昭和55年4月2日～昭和56年4月1日
35歳	昭和50年4月2日～昭和51年4月1日
40歳	昭和45年4月2日～昭和46年4月1日

●乳がん・大腸がん検診

年齢	乳がん・大腸がん検診対象生年月日
40歳	昭和45年4月2日～昭和46年4月1日
45歳	昭和40年4月2日～昭和41年4月1日
50歳	昭和35年4月2日～昭和36年4月1日
55歳	昭和30年4月2日～昭和31年4月1日
60歳	昭和25年4月2日～昭和26年4月1日

※子宮頸がん、乳がん検診は女性のみ

子宮頸がん検診、乳がん検診のお知らせ

平成24年2月18日(土)に“偶数年生まれの方を対象とした”女性検診を行います。申し込み開始は1月6日(金)からです。詳しくは、今月広報の折込チラシをご覧ください。

*奇数年生まれの方で乳がん検診無料クーポン券の対象となっている方は、町が指定する医療機関で受診してください。奇数年生まれで子宮頸がん検診無料クーポン券をお持ちの方は、町の検診を受診できます。

“自宅でできる大腸がん検診”

大腸がん無料検診対象の方の検診のお知らせ

下記の期間に保健予防係までお申し込みください。検査キットと問診票をお送りします。

- 第1回申込期間：1月16日(月)～1月25日(水)
- 第2回申込期間：2月27日(月)～3月2日(金)
- *検診結果は約1か月後に郵送でお知らせします。

1月の保健メモ

(連絡先 役場保健福祉課 保健予防係 ☎2-4630)

行 事	実施日	時 間	会 場
麻しん風しん混合予防接種	11日(水)、17日(火)	15:30～16:00	町立診療所 (要予約)
日赤巡回診療	11日(水)、25日(水)	13:30～14:30	保健センター (要予約)
子供料理教室	12日(木)、13日(金)	10:00～13:00	保健センター (要予約)
乳児健診	17日(火)	9:00～10:30	保健センター (個別通知)
二種混合予防接種	19日(木)	15:30～16:00	町立診療所 (要予約)
献血	20日(金)	13:30～16:00	保健センター
フッ素歯みがき教室	23日(月)、26日(木)、30日(日)	13:15～14:00	保健センター (個別通知)
三種混合予防接種	24日(火)	13:30～13:50	保健センター
B C G 予防接種		13:50～14:00	保健センター
ヒブワクチン予防接種		14:00～14:15	保健センター (要予約)
小児用肺炎球菌ワクチン予防接種②		14:15～14:30	保健センター (要予約)
運動教室②	25日(水)	18:00～20:00	庶野生活館 (要予約)
親子のリフレッシュ運動教室	26日(木)	9:30～11:30	保健センター (要予約)
二種混合予防接種	26日(木)	14:00～16:00	庶野診療所 (要予約)

●庶野診療所 (☎4-2219)

三種混合・B C G・麻しん風しん混合・ヒブ・小児用肺炎球菌の個別予防接種

①実施日……毎週月・木曜 14:00～16:00 ※要予約

●広尾町かめだクリニック (☎01558-2-4724)

ヒブ・小児用肺炎球菌の予防接種を受けることができます。希望の方はお問い合わせください。

●浦河日赤病院 (☎0146-22-5111)

麻しん風しん混合予防接種

①小児科外来申し込み……1期(1～2歳)・2期(小学校入学前1年間の小児)・3期(中学1年生の年齢に相当する者)

②医事課申し込み……4期(高校3年生の年齢に相当する者)

ヒブ・小児用肺炎球菌の予防接種
医事課にお申し込みください。

●ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンの接種を保健センターで希望する場合

接種日の前週金曜日までに、保健予防係へ電話予約(☎2-4620)が必要です。



《一般書》

■ 謎解きはディナーのあとで2 東川 篤哉

■ 真夏の方程式 東野 圭吾

■ 裏も楽しい手編みのマフラー 嶋田 俊之

■ Let's Ski スキーのいろは

■ 木でつくる小さな食器 渡邊 浩幸

《児童書》

■ 宇宙への旅 ビジュアル版 ジャイルズ・スバロウ

■ まぼろしの大陸へ 池田まき子

■ 天気の不由議がわかる！ 日本気象協会監修

■ 絵でわかる「漢字使い分け」 丹羽 哲也 監修

■ 子どものうちから知っておきたい西洋美術を築いた画家二十人の生涯 チャーリー・エアーズ



《おすすめ本》

北海道室蘭市本町一丁目四十六番地
安田 顕 著



どんな貧乏も失敗も、親父が話すとき幸せになる。俳優・安田顕（TEAM NACS）の故郷、室蘭。心揺さぶる家族愛エッセイ。

防災情報版 ⑮

地域力は防災力

月一七日で、阪神・淡路大震災（一九九五年）から一七年になります。この災害では、冬の早朝に発生した地震により、六千四百三十四名もの命が奪われました。家屋の倒壊で約三・五万人が生き埋めになったのですが、その中の七〇八割の人々が、近隣住民により救出されました。中でも、淡路島の北淡町（現淡路市）は、地域社会のつながりが強く、近隣の人々が互いの家の間取りを把握していたため、迅速な救出活動ができました。

また、先月、岩手県釜石市でも興味深い話をうかがいました。ある集落では、津波で家を流された人々が集会所に避難し、自分たちで避難所運営をしていました。そこでは起床後に布団をたたみ、毎朝六時半にはラジオ体操をする、といった規則正しい生活を送っていました。避難所の中では、炊き出し、搜索、片付けといった具合にてきぱきと活動していました。そして、ボランティアや警察など、支援に訪れる人々が和やかな雰囲気になんか安心するような避難所だったそうです。

なぜ、津波で家族や家を失った人々が、安定した避難生活を過ごせたのでしょうか？ その背景を探っていくと、災害前からの地域のつながりによることがわかってきました。その集落では頻りに地域の人が集まるような行事を行っていました。中でも、女性たちが中心となって、月に一度、地域のお年寄り向けのレクレーションを長く続けてきました。行事を通して地域の中にどんなお年寄りが

いるのか、どんな頼れる人がいるのか、互いに知ることができました。そのため、災害の時には一人一人のお年寄りに対し細やかな配慮ができ、お年寄りが安心して避難生活を送れたそうです。

昨年、えりも町の方々とお話ししたとき、地域のつながりが今も生きていることに感銘を受けました。小学校の運動会をみんなで盛り上げたり、「自分たちの地域のことは自分たちでやる」という意識を持つていたりすることは、大きな財産です。日頃の地域のつながりが防災や災害対応の力ギになります。二〇一二年もえりも町の地域力が活かされるような、防災の取り組みを進めていきましょう。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。



定池 祐季

北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター・助教、博士（文学）。中学生の時、北海道南西沖地震を奥尻島で経験する。公務員、NPO勤務、「人と防災未来センター」（神戸市）研究員を経て2011年4月より現職。

お知らせ



社会福祉士を募集します

町では、次のとおり社会福祉士（正職員）を募集します。

●採用人数 一名

●採用時期 平成二十四年四月一日

●応募資格

次の条件をいずれも満たす方

①昭和五十七年四月二日以降に生まれた方で、社会福祉士の資格を有する方、又は採用時までに資格取得見込みの方

②普通自動車免許取得又は採用時までに取得見込みの方

●提出書類

①採用申込書②履歴書(写真添付)

③学業成績証明書

※③は平成二十四年三月大学卒業見込みの方のみ。

●申込期限

平成二十四年一月三十一日まで
(郵送の場合、期限までに必着)

●採用試験

面接試験(別途通知)

●提出先及び問い合わせ先

〒〇五八―〇二九二

幌泉郡えりも町字本町二〇六番地

保健福祉課 ☎二―四六二二

心の健康づくり講演会

浦河保健所では、北海道産業保健推進センターの井上蓉子氏を招き、

「働く人のメンタルヘルス〜気持ちよく働くために〜」と題した講演会を開きます。

●日時 平成二十四年一月二十四日

十三時三十分〜十六時

●場所 浦河町総合文化会館

●参加費 無料

●参加申込

一月二十日までに、浦河保健所の子ども・保健推進課(☎〇一四六―二二―三〇七二)までお申し込みください。

職員住宅の見学会

消防えりも支署の正面右側に完成したえりも産の木材を使用した町職

員住宅の見学会を開きます。

ご希望の方は、次の日時に建設場所までにお集まりください。

●日時 一月十七日 十時〜

●問い合わせ先

建設水道課建築管財係

☎二―二二一四

障害者職業能力開発校入校生募集

国立北海道障害者職業能力開発校では、求職中の障がい者の入校生(訓練期間一年又は二年間)を追加募集しています。

詳しくは、本校又は公共職業安定所までお問い合わせください。

●問い合わせ先

国立北海道障害者職業能力開発校

☎〇一二五―五二―二七七四

浦河公共職業安定所

☎〇一四六―二二―三〇三六

e-Tax(じ)利用を

法定調書や法定調書合計表のe-Tax・光ディスク(CD・DVD・MO・FD)による提出は、事務所などにながらにして提出でき、作成の際の事務の省力化・効率化が図られるなどのメリットがあります。また、法定調書合計表をe-Tax

あつまれ！一歳児



「すくのび」は、「すくすくのびのび育て」の願いを込めたタイトルです。



ふくいまな
福井麻心ちゃん
(康晃・麻由子)
H23.1.7生(大和)

これからもママのお手伝いお願いね。

xで送信し、法定調書は光ディスクや紙により提出することもできます。

ぜひ、e-Tax・光ディスクをご利用ください。

詳しくは、国税庁ホームページ内の「平成二十三年分給与所得の源泉徴収票等の法定調書の作成と提出の手引き」をご覧ください。

●問い合わせ先

浦河税務署

☎〇一四六―二二―四一三二

震災・法テラスダイヤル

日本司法支援センターでは、東日本大震災の被災者の方々の法的支援

子育てテレホンサービス

- 【小学生期】
家庭学修に集中できない子ども
1/10~1/16
- 【中学生期】
部活動内で対立をおこした子ども（クラブ活動で自信をもった子ども）
1/17~1/23
- 【親の学習】
「真似」をして学び成長する
1/24~1/31
- 【幼児期】
5歳児の発達（2）
2/1~2/7

☎ 2-3715

に特化した電話窓口として、「震災・法テラスダイヤル」を設け、十一月から受付を開始しました。

「震災・法テラスダイヤル」は、二重ローンや相続の問題を始め、被災者が直面する法的な問題について、解決に役立つ各種法制度についての情報を電話で提供するというもので、フリーダイヤルを採用することによって、全国各地の被災者に無料でご利用いただけます。

●震災・法テラスダイヤル
☎〇一二〇〇七八三〇九



平日 九時~二十一時
土曜日 九時~十七時

●弁護士相談

弁護士相談センターでは、次のとおり相談を受け付けています。相談には予約が必要です。

- ▼浦河相談所
一月十六日
十三時~十六時
- ▼静内相談所
一月十一・十八・二十三・二十五・三十日、二月一・六日
十三時三十分~十六時三十分

♥ご厚志に感謝します

- 予約受付
月~金曜日 十時~十六時
☎〇一四六四二一八三七三
- 中屋明宏さん（近浦）
近浦自治会へ 三万円
- 金子達也さん（苦小牧市）
庶野中央自治会へ 三万円
- 山本真知子さん（新浜）
柏台自治会婦人部へ 五万円
- 川崎正治さん（えりも岬）
えりも岬連合自治会へ 五万円
えりも岬老人クラブへ 三万円



古きもの捨てずに暮らし秋刀魚焼く 石森美恵子
雪虫や儂く逝った娘を思ふ 川村 和子
落ち葉径くねくね山の風匂ふ 鈴木 周子
菊匂う庭に終わりの彩を掃く 長岡 青風
人の死へ言葉を選ぶ白露かな 佐々木蓉子
日々変わる彩の深さの秋の海 佐々木凌子

（えりも吟社）

浦河警察署からのお知らせ

1月10日は「110番の日」

110番は、事件・事故などが発生した場合に警察へ緊急通報をするための電話です。110番に出た警察官が、事件・事故の内容に基づいて必要な事項を質問するので、慌てずに落ち着いて正しく教えてください。

携帯電話で110番する場合、車を運転しながらの通報では法令違反となります。必ず、安全な場所に停止して通報してください。

また、警察官が早く現場に到着できるよう、その場所の住所や付近の目標となる建物などを正しく伝えてください。

急を要しない相談や照会などは、警察相談電話#9110又は浦河警察署、交番・駐在所へ問い合わせください。

- ★社協のボランティアセンターへ
- 廣島スミエさん（江別市） 三万円
- 山本真知子さん（新浜） 三万円

人のうごき

(平成23年11月30日現在)

近浦	178人	68世帯
笛舞	300人	120世帯
大和	1,058人	447世帯
本町	923人	405世帯
新浜	682人	302世帯
歌別	370人	140世帯
東洋	408人	136世帯
えりも岬	573人	212世帯
庶野	725人	272世帯
目黒	173人	74世帯
合計	5,390人	2,176世帯
(男 2,698人 女 2,692人)		
転入	10人	転出 4人
出生	8人	死亡 8人

税の納期

◆国民健康保険税 第7期
(納期限 平成24年1月31日)



防犯パトロール出発式 (12月12日)

第54回えりも町女性大会

とき 平成24年2月5日(日)
10時から
ところ 福祉センター 大会議室
内容 講演会(気象予報士の方が最近の異常気象や防災について講演します)
※町民であればどなたでも参加できます。
問い合わせ先
えりも町女性団体連絡協議会事務局
(福祉センター内)
教育委員会生涯学習課社会教育係
☎01466-2-2526

えりも町女性団体連絡協議会

税務署からのお知らせ

公的年金等を受給されているみなさまへ

平成二十三年分以後の各年分について、公的年金等の収入金額の合計額が四百万円以下で、かつ、公的年金等に係る雑所得以外の所得金額が二十万円以下である場合には、所得税の確定申告をする必要がなくなりました。

※この場合であっても、所得税の還付を受けるための確定申告書を提出することができます。

※所得税の確定申告が必要な場合であっても、住民税

の申告が必要な場合があります。住民税に関する詳しいことは、役場税務課(☎二一四六二〇)までお問い合わせください。

申告書の作成は簡単・便利な「確定申告書等作成コーナー」で

国税庁ホームページ(下欄参照)の「確定申告書等作成コーナー」では、画面の案内に沿って金額等を入力すれば、税額などが自動計算され、所得税、消費税の申告書や青色申告決算などが税務署に出かけることなく、自宅で簡単に作成することができます。作成した確定申告書は、印刷して郵送等により提出でき

るほか、そのままe-Tax(※)で送信することができます。

確定申告書の作成には自動計算で簡単・便利な「確定申告書等作成コーナー」をぜひ、ご利用ください。

この「確定申告書等作成コーナー」は、一月から利用することができます。

(※) e-Taxの利用には、電子証明書が付与された住民基本台帳カード及びICカードリーダーライタが必要です。

●浦河税務署
☎〇一四六一二
二一四一三二

国税庁ホームページ
<http://www.nta.go.jp>

1月の行事

1日	風の館初日の出臨時開館(風の館/5時~8時)
5日	消防出初式(消防支署前/9時30分~)
8日	成人式(福祉センター/11時~14時)
13日	つげものコンクール(福祉センター/10時~)
14日	全道少年フットサル大会
26日	日高地区予選大会(町民体育館/9時~)
28日	運転免許証更新時講習(福祉センター/優良13時~13時30分・違反14時~16時)
	郷土資料館講演会「猿留山道とフットパス」(福祉センター/18時30分~)